

静岡いのちの電話

自殺予防映画会



喰らうは生きる
食べるは愛する
いっしょのご飯が
いちばんうまい

沢田研二、主演。

料理研究家・土井善晴が

映画に挑む。

四季折々の食で綴る人生ドラマ。

土を喰らう十二月

沢田研二

松たか子

西田尚美 尾美としのり 瀧川鯉八

檀ふみ 火野正平 奈良岡朋子

監督・脚本・中江裕司

原案・水上勉

『土を喰らう』が雑誌『十二月』(新潮文庫刊)

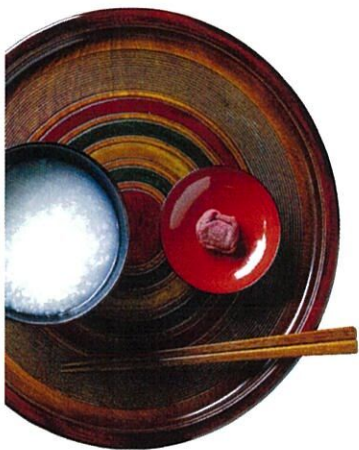
『土を喰らう』が雑誌『十二月』(文化出版局刊)

料理・土井善晴 音楽・大友良英

製作・土を喰らう十二月製作委員会

配給・日活 制作・オフェンスシロクス

助成・文化庁(映画芸術振興補助金)
独立行政法人日本芸術文化振興会
©2022 土を喰らう十二月製作委員会



日時：2024年1月20日(土) 13:30～ (開場13:00)

会場：サールナートホール1F (静岡市葵区御幸町11-14)

定員：先着200名様 入場無料

申込：12月1日(金)～

主催：社会福祉法人 静岡いのちの電話

TEL：054-272-4344 (平日13:00～17:00)

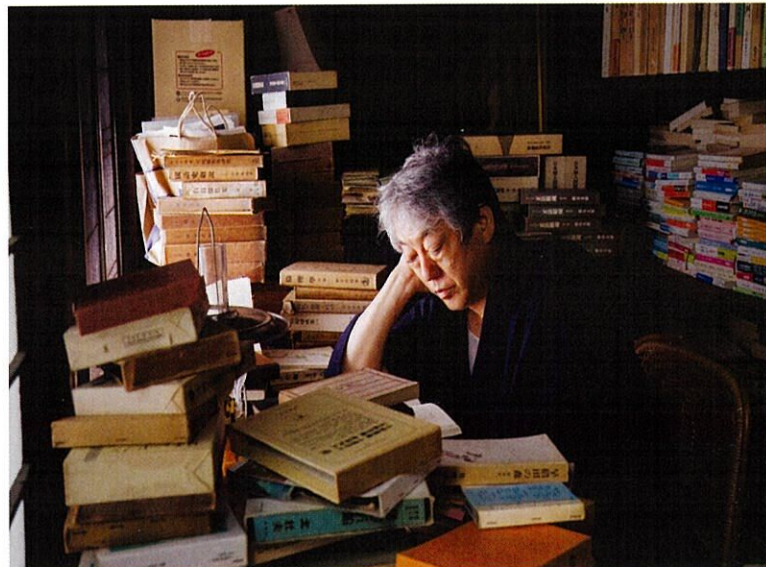


tsuchiwokurau12.jp

圧倒的な存在感で 沢田研二が体现する 豊かな生き方

長野の山荘で暮らす作家のツトム。山の実やきのこを採り、畑で育てた野菜を自ら料理し、季節の移ろいを感じながら原稿に向き合う日々を送っている。時折、編集者で恋人の真知子が、東京から訪ねてくる。食いしん坊の真知子と旬のものを料理して一緒に食べるのは、楽しく格別な時間。悠々自適に暮らすツトムだが、13年前に亡くした妻の遺骨を墓に納められずにいる。

1978年に水上勉が記した料理エッセイから、中江裕司監督が物語を紡ぎだした本作は、人々がいつしか忘れてしまった土の匂いのする生活を思い起こさせ、人としての豊かな生き方を教えてくれる。主演の沢田研二は、物語を凌駕する圧倒的な存在感を見せる。映画を見終わったとき、観客はツトムと十二月を体験したことに気づくはずだ。



土井義晴が 料理を手掛けた 初めての映画

目も心も満たしてくれる旬の野菜で作る料理の数々。ほうれん草の胡麻和え、若竹煮、胡麻豆腐など、ツトムが寺で覚えた料理を具現化したのは、料理研究家の土井善晴。初の映画参加となった。撮影前に開墾し、実際にスタッフが畑で育て収穫した食材を使用。四季を撮るために日本映画では異例の一年六ヵ月にわたる撮影を敢行するなど、"土を喰らう"という本質に徹底的にこだわった。劇中の料理の多くは土井の指導の下、沢田自身が実際に作っている。



松たか子、火野正平、奈良岡朋子ほか、脇を固める実力派

申込方法：①氏名②住所③電話番号④申込人数を明記の上
メールまたはFAXでお申込み下さい。

★参加者の皆様にはメール等でご連絡いたします。★お申込み受付は先着順とし、定員になり次第締切ます。

★応募いただいた個人情報は事務局にて厳正に管理しメールのみに使用いたします。

メール：sz-inochi@wave.plala.or.jp

FAX：054-255-1817

●映画会のお問い合わせ

静岡いのちの電話 TEL:054-272-4344 (平日13:00~17:00)